

「Value Impact」の創出を目指して

公益社団法人 日本バリュー・エンジニアリング協会 会長
 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 理事長
鈴木 佑司



政府は、「新しい資本主義」の実現に取り組む中、民間による社会的課題解決に向けた公益的活動の活性化を重視し、「民間も公的役割を担う社会を実現」することを柱の一つとして位置づけています。社会のあらゆる分野で民間非営利部門の主たる担い手となっている公益法人に対して、積極的に新たな事業展開にチャレンジし、新たな社会的価値を創造し、成果として「社会的インパクトを創出」していくことを期待しているのです。

VEが日本に紹介されて以来、半世紀以上が経ち、産業界で多くの目覚ましい成果を挙げてまいりました。しかし、いまだに「VE=コスト低減手法」と認識されている方々は少なくありません。また、VEの進め方や活用法についても多種多様なアプローチが研究・開発されてきたものの、「社会的インパクトの創出」という領域、レベルにはまだ達していないと思われまます。

企業に限らず、自治体などの公共機関でもVEが積極活用されるようになってきました。そうした面では社会的課題解決にも大きく貢献していると考えられます。しかし、より広範かつ一般的な「社会的インパクトの創出」という領域、レベルにまで普及・活用されているかと問えば、やはり、まだ十分ではないと言わざるを得ない状況と捉えております。

世の中の動きに目を転ずれば、SDGsやESGの浸透により、世界中の企業は環境問題や社会課題の解決に貢献することを強く求められるようになりました。各社ともその対応に努めておられます。

このような社会環境の変化に対して、VEも時代の要請に即して本来のあるべき姿を再認識し、新たな形へと拡張・進化していく必要があります。

そこで、本会では「社会に新たな価値を生み出

し、多くの社会的課題を解決するために、VEを新たなステージへと進めていく」ことをここ数年の基本方針として掲げてきました。さらにこの基本方針と併せて「Value EngineeringからValue Designへ」を標榜し、VEを通じて社会的インパクトを創出すべく、新しい時代のVE、すなわち「Value Design」のあり方を検討しております。

基本的には、短期的な財務価値の追求にとどまらず、長期的な非財務価値、社会価値、環境価値なども視野に入れた活動とともに、その成果としてのインパクト=「Value Impact」の創出を目指してまいります。

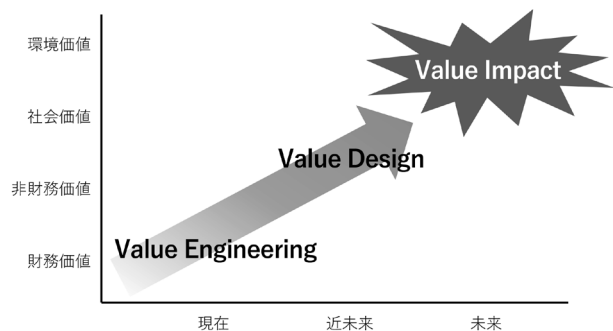


図 Value Impactの創出を目指して

同時に、そのような「Value Design」の実践を担う人材=「Value Designer」の育成についても、重要課題として引き続き取り組んでおります。具体的には、VEテキストの内容見直し、VE資格認定制度の再整備、「Value Designer」を養成するプログラムの創設等々です。

ここ数年のコロナ禍の影響もあり、事業推進上の困難もありますが、公益法人の本分を果たすべく鋭意努力してまいる所存ですので、引き続き皆様のご支援を賜りたく、お願い申し上げます。